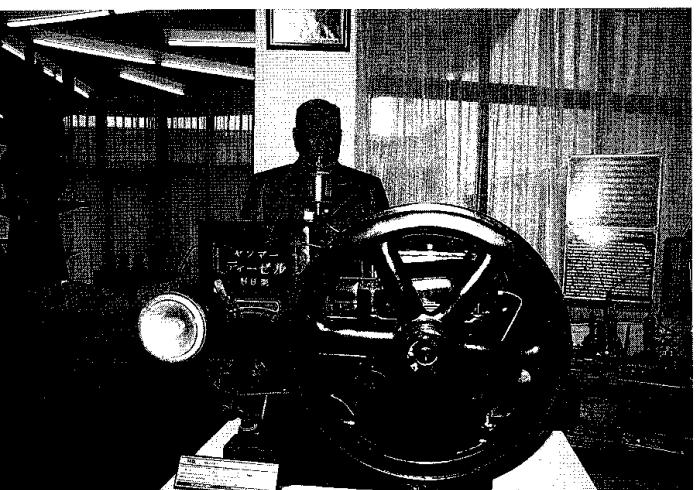


# 世界初の小型エンジン開発物語

## ヤンマーディーゼルエンジン



▲昭和8年に開発された世界初の小型ディーゼルエンジン

高月町東阿閉に  
孫吉さん生まれる

まずは連想ゲーム。ヤンマーといえば？

トランクター、セレッソ大阪、ヤン坊マー坊天氣予報と、いろいろ出てくる。それでは、インターネットのホームページを検索する感じで、もう一つのキーワード、「近代化遺産」を加えると、「小型ディーゼルエンジン」と「山岡孫吉さん」が衣れるんですね。

ヤンマー関係者に、山岡孫吉さんて誰？という人はまずいない。湖北に住む中高年の人たちも、たいがい知っている。彼は、ヤンマーの創始者。立志伝中の人物なのだ。でも、孫吉さんは知っていても、小型ディーゼルエンジンの話まで知っている人は少ない。近代化遺産は、建物や構築物だけじゃないんです。小型ディーゼルエンジンは、湖北にとつて大切な近代化遺産の一つ。まずは、小型ディーゼルエンジン誕生までのお話をからはじめましょう。

### 最初の仕事は ガス管の敷設工事

十六歳になった冬のある日、孫吉さんは、おはさんが工面してくれた三円六十銭を持て大阪へ旅立つ。幸い、大阪ではお兄さんが働いていた。兄さんの家にころがりこむが、なかなか仕事は見つからない。ちょうど日露戦争のころのこと。  
暇なもんだから、しょっちゅう、近くの堂島川へ釣りに出かけていた。近くに大阪瓦斯の作業場があって、昼休みになると、会社の人たちが孫吉さんの釣りを覗きに来る。親しくなった一人に、瓦斯会社で雇つてもらえないかと頼んでみた。すると、ガス管を敷設する仕事ならと、すんなりオーダー。日露戦争の戦勝気分に沸く大阪の街で、ガスの供給が始まつたころだ。

世の中は未曾有の不況に陥り、ガスエンジンの注文もぱつたり止まってしまった。そこで、孫吉さんは、一時ふるさとへ帰り、しゃにむに突っ走ってきた仕事を見つめ直す。

当時、ガスを何に使つたかというと、台所の調理用よりも、工場や事業所の動力源が多かった。ガスで動くエンジンがあつて、その燃料に使つたわけだ。

やがて、ガスエンジンの据え付け工事も手がけるようになった孫吉さん、体力もあつたが、手先も器用で、商魂もたくましかつた。中古ガスエンジンの修理と販売が軌道に乗り、山岡発動機工作所という自分の会社をつくってしまう。現在、ヤンマー本社がある大阪の茶屋町に、ヤンマーの前身が誕生したわけだ。

孫吉さん、なんと、二十四歳のときである。

### 中古ガスエンジンで おおもうけ

自らの手で

モノをつくるメーカーに



▲山岡孫吉初代社長は立志伝中の人物だ。

うちの息子もブラブラしとるけど、来年は二十四やなあ、などと、ため息をついているあなた、時代が違うんですから。

さて、大阪のような大都会には、やがて電気の時代がやってくる。手軽な電気モーターが登場すると、ガスエンジンは途端に時代遅れになってしまいます。ところが、何を思ったか、孫吉さんは、大阪で不要になつたガスエンジンを片づけながら買つて集めた。どうしたかといふと、それらを新品同様に修理して、地方の都市へ売りに回つたのである。

大正時代、地方の都市には、ガスは来てい

十年間、大阪でやつてきて

たことは、中古のモノを安く買い、ちょっと付加価値をつけて高く売るという、

自らの手でモノをつくり、提供する。つまりメーカーに

## いろいろな金次郎さん

### スタイル編

左手で本を持ち、右手は背負子の紐に。左足を二歩前に踏み出しているもののけっこう直立動きを感じさせるほどの姿態ではない。ほとんどの金次郎さんがそんな様子だ。

### 着衣編

上衣はもちろん着物だが、その着方が一種類。ほとんどが、上衣の裾をニッカ・ボッカのようなダボダボズボンの中に入れて着ているスタイルだが、股引のようないックタリしたズボン（というのか）をはき、上衣をはおつて紐（今でいうベルト）でしばったスタイルもあった。

### 顔立ち編

これはさまざま。幼少期がモデルだろうが、年齢差がけっこうあるように思いませんか？ 今までめうそな人、やんちゃっぽい人、びっくりしたような表情の人…。わたし好みは大原小学校やなあ。



### 文言編

台座に掲げられている主な文言は次のようなものだった。「二宮金次郎像」（びわ南小・速水小）「以徳報徳」（山東西小・大原小・北郷里小）「報徳」（木之本小）「勉学」（長浜南小）「勤勉」（醒井小・浅井北小）「勤儉」（七郷小）「孝・自行之本」（高時小）「全誠力行」（小谷小）「惠誠」（伊吹小）

